

# イノベーションドライバー育成プログラム詳細

\*プログラム内容、講師は都合により、変更になる場合があります

## 【STEP 1 ナレッジストレッチ】

AI、IoTやロボティクスなどの共通基盤技術に関する知識を深め、シーズや自らのポテンシャルを認識したイノベーション創出のやり方を学ぶ

	第1回 (6月下旬)	第2回 (7月上旬)	第3回 (7月下旬)
AM (10-12時)	◆ <u>トップ専門家とイノベーションについて語ろう～イノベーションのヒントを探す～</u> 各界の専門家から最新の情報提供を受けることで、「知的好奇心」を醸成し、視野を広げ構想力を養う		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通基盤技術 (AI、IoT、ロボティクス) の最新動向</li> </ul> <b>株式会社チームAIBO</b> 代表取締役社長 松尾 久人 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>共創 (オープンイノベーション) 先進事例の紹介</li> </ul> <b>富士フイルム株式会社</b> イノベーションアーキテクト 中村 義貞 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーション創出の土台となるアントレプレナーシップ</li> </ul> <b>九州大学大学院経済学研究院</b> 教授 高田 仁 氏
PM (13-17時)	◆ <u>ファシリテーターによる知識Input→Output～シーズ起点の新規事業創出とは～</u> 新規事業創出において最低限必要な知識を学び基礎力をトレーニングしながら、自らのポテンシャルやシーズから新規事業創出のアイデアを検討する		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジカルシンキング</li> <li>ラテラルシンキング</li> <li>システムシンキング</li> <li>デザインシンキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シーズ起点の新規事業創出</li> <li>自社 (自分) における強みの棚卸</li> <li>パラダイムチェンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>チームビルディング</li> <li>ファシリテーション</li> </ul>

## 【STEP 2 ミライデザイン】

社会的課題や身近な困りごとに関する認識を醸成し、将来技術も俯瞰しながら未来構想をするための考え方を学ぶ

	第4回 (8月下旬)	第5回 (9月上旬)	第6回 (9月下旬)
AM (10-12時)	◆ <u>トップ専門家とイノベーションについて語ろう～イノベーションのヒントを探す～</u> 各界の専門家から最新の情報提供を受けることで、「知的好奇心」を醸成し、視野を広げ構想力を養う		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来技術 (量子コンピュータ) の紹介</li> </ul> <b>京都大学大学院 理学研究科</b> 特定准教授 藤井 啓祐 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ調整中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ調整中</li> </ul>
PM (13-17時)	◆ <u>ファシリテーターによる知識Input→Output～ニーズ起点の新規事業創出とは～</u> 受講生同士が「対話」を行うワークショップを中心にして、新しい価値創出を行う = 事業化するためのアプローチを学び、将来のニーズから新規事業のアイデアを検討する		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会課題を捉えるためのワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業戦略策定のポイントをつかむワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピッチコンテスト</li> <li>アイデアソン</li> <li>チームアップ</li> </ul>

## 【STEP 3 ビジネス コ・クリエーション】

社会的課題解決を視野に、分野を異にするチームメンバーのコアコンピテンシー、共通基盤技術等の活用によるビジネスプランの作成を通じて、新たな価値創造を目指す

	第7回 (10月上旬)	第8回 (10月下旬)	個別ワーク① (11月上旬)	第9回 (11月下旬)	個別ワーク② (12月上旬)	第10回 (12月下旬)
終日 (10-17時)	◆ <u>ファシリテーターによる実践指導～社会的課題解決に向けた新規事業創出～</u> STEP 1, 2で創出された「イノベーションの種」について、チームメンバーのコアコンピテンシー、共通基盤技術などを活用できるかを検討し、また講師からの実践指導を受けることで、ビジネスプランへブラッシュアップしていく					
	プレゼンテーション → フィードバック → グループワーク → アクションプラン発表の流れを繰り返し、さまざまな視点からのフィードバックを得て、ブラッシュアップを目指す					最終成果発表 ・学びの共有、自分の課題 ・今後のアクション

## 【メインファシリテーター】

### ◆STEP 1, 3担当

#### **日本テクノロジーソリューション株式会社 代表取締役社長 岡田 耕治 氏**



1999年、父親から事業継承したブラウン管検査装置ビジネスの将来に不安を抱き、自社の強みを発揮できる新たなビジネス市場を模索し、自社ブランド製品開発・販売、業態転換を果たす。自身の実践的経験を踏まえ、「テクノロジーマーケティング」「第二創業」「新分野進出」「事業化プロデュース」などをキーワードに、各企業で新規事業開発プロジェクトを推進している。また、自らの葛藤とヒアリング・調査を通じて体得したビジネス開発と周囲を巻き込むリーダーシップの要諦を熱く語ることができる。

### ◆STEP 2, 3担当

#### **フィールド・フロー株式会社 代表取締役 一般社団法人OSTi 副代表理事 渋谷 健 氏**



外資系コンサルティングファーム、国内ベンチャー、国内大手企業経営戦略室を経て2014年にフィールド・フロー株式会社を設立。関東圏及び九州圏を中心に、行政の政策策定や民間の創業・新規事業立上を現場参画しながら支援。「事業脚本家」「ファシリテーター」として、北九州e-PORT構想2.0の立上、コワーキングスペース秘密基地の展開、福岡市まちなるきオープンデータソンなどさまざまな事業立ち上げを手掛けている。その経験をもとにイノベーション創出に向けて実践指導を全国で行っている。

## 【トップ専門家】

#### **株式会社チームAIBOD 代表取締役社長 松尾 久人 氏**

九州大学大学院を卒業後、日本アイ・ピー・エム株式会社入社。数々のプロジェクト責任者を経験し、九州大学共進化社会システム創成拠点事業化推進グループを経て、2016年株式会社チームAIBOD設立、代表取締役社長に就任。株式会社チームAIBODは、九州発の先進的IT研究や産業応用をリードしてきた研究者が集まったスタートアップ企業。情報技術の発達で急速に変化している現在、新しい技術を適用し、グローバルで勝負できるプラットフォームを開発し、これからの社会を牽引するといわれるシェアリングエコノミーの開拓者となるべく活動を行っている。

#### **九州大学大学院 経済学研究院教授 高田 仁 氏**

九州大学工学部卒業後、大手メーカー勤務を経て、株式会社先端科学技術インキュベーションセンター(CASTI、現東大TLO)取締役副社長兼COOとして、産学連携の黎明期に大学の技術移転実務に携わる。2009年から米国MIT客員研究員として起業家教育の調査研究を行い、九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センターの設立に参画し、アントレプレナーシップ教育に携わる。イノベーションには不可欠と言われるアントレプレナーシップ。日本からのイノベーション創出に向けて、「アントレプレナーシップとは、現状維持に対する挑戦です」と教育に情熱を傾けている。

#### **富士フイルム株式会社 R&D統括本部 イノベーション アーキテクト 中村 義貞 氏**

1984年京都大学大学院工学研究科卒業後、富士写真フイルム株式会社に入社。足柄研究所にて写真材料用素材ならびに商品開発に携わる。その後、新規事業開発本部にて新規事業・新商品開発を担当を経て、2006年ライフサイエンス研究所にて機能性化粧品開発リーダーに就任し、「アスタリフト」の製品・事業開発を牽引する。2017年からはイノベーションアーキテクトとして、自身の体験をもとにオープンイノベーションや新規事業創出のポイントなどを若手研究者に伝授すべく数々の講演を行っている。著書に「図解 新規事業を創出する方法」や「図解 オープン・イノベーション入門」などがある。

#### **京都大学大学院 理学研究科 特定准教授 藤井 啓祐 氏**

京都大学大学院工学研究科 博士課程終了後、大阪大学大学院や京都大学白眉センター特定助教、東京大学量子科学研究センター助教などを経て、2017年10月から京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻、特定准教授（卓越研究員制度テニュアトラック）に着任。2017年に量子技術普及のため、一般社団法人Quantum Research Instituteを設立。また、量子ソフトウェア開発のためのベンチャー企業、株式会社QunaSys（キュナシス）最高技術顧問として「量子技術」の実用化し社会に革新をもたらすため、日夜、研究開発に取り組んでいる。